東京白百合幼稚園

令和６（２０２４）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス

RELIEF&CONFIDENCE

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認定こども園〕　　令和6年度

《事業所名：東京白百合幼稚園》

1　理念・方針　（関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）

事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、
特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述
（関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）

1)理念【明るく・たのしく・のびのびと】明るく・・健康でたくましい、健やかな子どもの育成。楽しく・・心を豊かにし、人を思いやり、気持ちを共感し、認め合いながらの楽しい園生活。のびのびと・・園児一人ひとりの心情や体力・個性に応じ、個々の発達にそった無理のない教育。
2)目標【長い目・広い目・見守る目で生きる力を育む】長い目・・未来に向けて子どもの成長をあせらずに。広い目・・園生活で培った色々な経験を基に。見守る力・・子どもたちが考えよう・感じようとする時間を大切に。
3)子どもを一人の人間として尊重した教育。画一的な授業になりがちな就学前教育、全員一致の行動の大切さは教え、一方で芽生え始める「個」を大切にしながら、「個」の発展につくす。
4)地域社会との連携。本来子どもは、地域全体で育てるもの。園は、地域に開かれ、地域から大切にされなければならない。園の行事には地域の方をお招きし、地域行事には積極的に参加し、様々な方と良好な関係を作る。
5)理事会、評議員会の合議による開かれた園経営。一部の人だけが経営をするのではなく、多くの理事、評議委員の意見を採用、教職員の意見も広く反映させ、働き易い職場環境を整備する。

2　期待する職員像　（関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）

（1）職員に求めている人材像や役割

上述内容とも重複するが、子どもは、多くの可能性を秘めており、その可能性を如何に開花させることができるか、それを導くことができる保育士を求めている。その為には、子どもの行動を予測し、新しい場を提供することにより、子どもにとっては、新たな気付きが促されたり、友だちとの関わりがどのように生まれたり変化するのかを自覚させる。子どもたちの行動をつぶさに観察し、鋭い洞察力を持って、子どもが思わず触りたくなるような、動かしたくなるような、関わりたくなるような魅力的な環境を整備できる保育者になるよう求めている。これが第一の人材像や役割と考えている。次に大切な人材像は、子どもに対して見本となっているかである。当然、日中は子どもたちは、教職員の姿を見て過ごす。ふとしたしぐさや行動を子どもたちは鋭い目で見ている。故に、繕った教職員の行動は、すぐに見破られることになる。要するに、保育者の本性が、子どもたちの見本となるに堪えうる人材となる必要があり、それを認識し、自己実現に邁進する人材が求められる。最後に大切な要素として、明るさ、元気さが必要である。常に気丈に笑顔で行動できれば、それは子どもたちにいい影響を与えると考える。

（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）

まずは、「先生」と呼ばれることの重さを正しく認識すること、これを期待したい。「先生」の意味を理解し、それに求められるものは何かを模索探究し実践していくことが必要と考える。日々の授業や保育の中で子どもたちに「教える」という技術的な向上は勿論の事、更には、物事に対する考え方から、行動に至るまで、全ての局面で「先生」にならねばならない。特に子どもたちにとってはとても敏感な時期、子どもが、何を見て、何を感じて、どのような行動に出るのかを鋭い洞察力を持って観て欲しい。その上で、次の行動や考え方を見越したうえで、次のステージを子どもたちに提供できる、そんな「先生」を目指して欲しい。そこには、子どもたちの「新たな発見」があり、それが感動に結びつき、次への学習へと続いていく。このような要因が極めて大切であることの認識に立った日々を送ることを期待したい。子どもたちの、考え方を、生活態度を、物事の見方を、ほんの数度でも変えることができれば、それは将来とても大きな「差」になることを強く認識してほしい。自分たちの態度、考え方で子どもの未来が大きく変わることを認識する保育者であって欲しい。

《事業所名：東京白百合幼稚園》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員は子ども一人ひとりを丁寧に見ているので、保護者の満足度が高い認定こども園です
	内容	当園は3歳児から5歳児までを受け入れています。今回の利用者調査の回収率は65.9%ですが、園に対する保護者の総合的な感想は、「大変満足」は37.9%、「満足」は55.2%で、満足以上は93.1%。また「不満」「大変不満」の保護者はいなかったので、保護者の満足度の高さがうかがえます。自由意見では、「小さな園なので、年齢を超えて交流でき、先生方の目が行き届いている」「園児の人数に対し職員の数が多いため、子ども一人ひとりをよく見てくれる」など、園に対する感謝の言葉が多くありました。
2	タイトル	同じ地域の系列園の子どもたちと一緒に虫を探し、いろいろなことを学んだ交流は、小学校に進んだ時の友達作りの準備にもなっています
	内容	当園は幼稚園開園から72年という長い歴史を有し、地域社会に広く親しまれています。園は地域との結びつきを重視し、地域の行事に積極的に参加するほか、他の保育園との交流も行っています。具体的には、近隣の系列保育園との交流を通じて、子どもたちは互いの園を訪れ、一緒に遊ぶ機会を持っています。例えば、「虫博士」と称される保育園の職員が虫について教えるイベントでは、近隣の系列保育園の子どもたちが共に虫を探し、さまざまなことを学ぶ体験をしています。このような交流は、小学校進学時の友人作りの準備にもなっています。
3	タイトル	小さい頃から自分の「好き」を見つけるための、「スイッチ保育」を取り入れています
	内容	園では子どもたちが「自分の好き」を見つける教育・保育に取り組んでいます。園では、その活動を「スイッチ保育」と命名して力を入れて取り組んでいます。体操や英語など必ず受けなければならない必須のレッスンはありますが、そうしたレッスン以外のときは、子どもたちは自分の好きな遊びができるようにしています。そのため園では、子どもが遊ぶ遊具や教材を数多く用意しています。子どもの小さいうちから自分を見つめる機会を作っています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者の要望や意見を聞く機会は複数ありますが、今後はさらに、匿名でいつでも投函できる「ご意見箱」を設置されてはいかがでしょう
	内容	現在、園では保護者の苦情や要望などは、運動会や親子遠足、クリスマス会など、行事を開催したときの保護者アンケートで、要望や意見を聞いています。また、最近では登降園時に直接、職員に意見を表明する保護者が増えています。このように、保護者の要望や意見を聞く機会は複数ありますが、ご意見箱は設置してありません。苦情や要望を表明しづらい保護者のためにも、職員の目に触れにくい場所など工夫し、ご意見箱を設置されてはいかがでしょう。
2	タイトル	園の良さをアピールすることで職員の採用につなげてはいかがでしょう
	内容	園は四方を川で囲まれ、公共交通手段も整備されていないことから、立地面や職員の通勤の利便性において十分に良いとは言い難く、職員の採用に苦労してきました。しかし、園では職員の働きやすい職場環境を作るためICT化を進め、保育業務支援システムを導入しています。さらに、当園は少人数の子どもたちを職員全員が把握して、個々の子どもに合った教育・保育をしています。これらの園の良さをアピールすることで、職員採用につなげてはいかがでしょう。
3	タイトル	日常の保育業務などのマニュアルは、動画で表現すれば分かりやすいでしょう
	内容	教育・保育業務を適切に行うように、園ではさまざまなマニュアルを揃えています。園外保育や虐待防止、苦情・要望対策、不審者対応、保健衛生、健康管理など、業務に必要なマニュアルを各種揃えています。しかしどのマニュアルも文章で書かれているので、読み込んで理解するのに時間も要します。災害などの対応マニュアルは、フローチャートにして対応方法を分かりやすくしていますが、マニュアルによっては動画で表現した方が分かりやすいものがあります。新人や経験の浅い職員が必要にするものですので、ご検討されてはいかがでしょう。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル①	職員同士が常に話し合える体制を作り、全職員で協力して子どもたちに対応しています	
内容①	子どもに関する情報は日々の園内会議や月例の職員会議を通じて共有されています。また、毎朝行われる「今日の伝言」において、職員同士が情報を交換しています。終礼の記録は職員室に掲示されているほか、園日誌にも記載されているため、職員は自分のパソコンからいつでも確認することが可能です。「今日の伝言」もパソコンで閲覧することで情報を共有できるようにしています。小規模のこども園ならではの特性として、職員間での常時のコミュニケーション体制を整え、全職員が協力し合いながら子どもたちに対応しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	園は自発的な行動を促すことを目的に、自ら考える力を育む教育・保育を実施しています	
内容②	園では、自発的な行動を促すことを目的に、子どもたちが自ら考える力を育む教育・保育を実施しています。具体的には、子どもが自分の判断で行動できるような環境を整え、職員からの指示を最小限に抑え、応答的な対応を心掛けています。また、教材は個々に持たせ、製作活動を行いたい時には、のりやマーカー、はさみ、折り紙などを自分のタイミングで使用できるようにしています。さらに、子どもたちの想像力を引き出すために、廃材を使った遊びも取り入れています。職員は細かな支持はせずに、安全に配慮した言葉がけを行うことに専念しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	子どもたちはさまざまな体験を通して頑張ることやあきらめないことを身につけています	
内容③	園では、外部講師による英語教育とスイミングを日常の教育時間に組み込んでいます。体操は教員資格を有する副園長が指導し、鉄棒や縄跳び、跳び箱などの練習を行っています。英語は、5歳児を対象に週に1回実施し、多文化に触れて楽しむことを目的とし、小学校の授業へつながるように計画されています。スイミングは、体力の向上と水に慣れることを目指し、月に2回程度行っています。子どもたちはさまざまな体験を通じて、努力することやあきらめない姿勢、苦手なことへの挑戦するなど非認知能力を育んでいます。	

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目

カテゴリー1

1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　　**サブカテゴリー毎の標準項目実施状況**　7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している　　**評点（○○）**

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　　**評点（○○）**

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　　**評点（○○○）**

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当

カテゴリー1の講評

保育理念や教育目標は、園の事業の基本ですので、職員にも保護者にも説明しています

園の保育理念は「明るく たのしく のびのびと」です。また教育目標は「長い目・広い目・見守る目で『生きる力』を育む」です。こうした園の基本的な考え方は園の創始者の想いで、この考え方を継承しています。職員の入職の際は、「入園のしおり」を活用して説明しています。中・長期計画や事業計画の冒頭には園の理念、ビジョンを掲載して、職員の理解を深めています。また保護者には、入園説明会で説明するほか、毎年、次年度への確認をする説明会でも、園の理念や教育目標を再確認するように話しています。

園の教育・保育を統括しているのは園長で、副園長が補佐しています

園の経営層は理事長を含む理事会で、園内では理事長を兼ねた園長、および副園長です。こうした経営層や職員の業務内容は「職務分担内容」に示されています。園長は園の最終責任者として園を統括しています。副園長は園長の補佐をするとともに、教育・保育現場の管理・監督と職員の指導にあたっています。区の保育園園長会などの外部の会合には、園長と副園長が参加しています。職員の業務上の迷いや悩みには、副園長が相談に乗って、職員が前向きに業務に取り組めるようにしています。

園経営に関わる案件は理事会で決め、教育及び保育業務は園長の承認で決めています

施設の修繕や高額な教材、物品の購入など、園経営に関わる案件は理事会で審議して決定します。数年前の園庭に人工芝を敷く計画の際は、理事会で決定しました。保育業務については職員会議で検討し、園長の承認で決めています。こうした決定事項は園長や副園長が職員に報告します。その時に休みを取った職員には、後日、説明します。保護者には、手紙やメール、園だよりで説明しますし、クラス担当職員が口頭でも伝えるようにしています。保護者に影響が及ぶような重大な事案は、園長から文書を配布して説明しています。

2 カテゴリー2

事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1（2-1）

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当

サブカテゴリー2（2-2）

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー2の講評

保護者や職員、区役所から地域の教育及び保育環境を聞いています

保護者の園に対する要望や希望を知るために、園行事の後にアンケートを行い保護者の意見を聞いていますし、子どもの送迎時にコミュニケーションを取り保護者のニーズを収集しています。職員にも園の事業に対する意見を聞くためアンケートを行っています。また各種イベント終了時に反省会を行い、職員の提案も聞いています。地域の教育及び保育事業については、区役所の担当職員や区の幼稚園園長会に出席して聞いています。少子化が進み、認定こども園では保育園に入園する子どもが減っているなどの情報を得ています。

今年度の事業計画には、「スイッチ保育」に取り組むことが記されています

中・長期計画は令和3年度から7年度までの5か年計画を策定しています。法人としての計画と系列園としての現在の課題を解決するための中・長期計画です。事業計画も系列園全園と当園の計画を用意しています。令和6年度の計画には、新しい保育の提案「スイッチ保育」に取り組むことが挙げられています。「スイッチ保育」は当園が名付けた保育方法で、ルールを守る中で自分の好きな遊びを見つける保育です。そのほか、食育や職員の働き方改革など、当園が課題にしていることなどが挙げられています。

行事の係などの職員体制を定め、計画が円滑に進むようにしています

計画を実施するときは、クラスの担当や行事の係などの職員の配置を決めて、計画が円滑に運べるようにしています。各担当職員が計画書を作成し、活動のねらいや実施方法などを設定します。計画の進捗状況は、毎月開かれる職員会議で確認しています。年度末には、一年間を振り返って「事業報告書」を作成し、次年度につなげています。

カテゴリー3

3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1（3-1）

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 **2／2**

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○ 非該当

サブカテゴリー2（3-2）

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 **4／4**

評価項目1
利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当

サブカテゴリー3（3-3）

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 **5／5**

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

	カテゴリー3の講評
	認定こども園教育・保育要領の本で教育・保育に関わる者としての心得を確認しています 教育・保育に関わる者としての心得は、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の本を職員に配布し読むように指導しています。乳幼児期は人生で最も大切な時期であるため、十分に養護の行き届いた環境のもとで、子どもと関わらなければいけないことを学んでいます。職員は、このような学びが実践に結び付いているのかを「自己評価票」でチェックしています。園ではとりわけ子どもたちの気持ちを傷つけないように気を付けています。最近は、日本各地で不適切保育の報道があったときに自分たちの保育を振り返っています。 **園の事業内容は理事長が動画で分かりやすく説明しています** 園の苦情解決制度については、入園説明会のときに「入園のご案内」で説明しています。ただ、現在、保護者が意見や要望を投函する「ご意見箱」は、設置してありません。保護者には園行事の際にアンケートを行い、そこで意見や要望を聞いています。園の事業の透明性を図る取り組みは、ホームページで園の保育内容を開示しています。ホームページでは、理事長が動画を使って園の事業内容を説明しています。 **地域に対しての子育て支援活動は、園開放をして地域の子どもたちを受け入れています** 保育実習生やボランティアを受け入れています。受け入れにあたっては、園の規則を守ること、園で知り得た情報は決して漏らさないことなどを約束しています。地域に対しての子育て支援活動は育児相談や就学前相談、そして園開放をして地域の子どもたちを受け入れています。地域の関係機関とのネットワークについては、区の幼稚園協会に参加して、幼児教育や子育てについて話題を共有しています。また虐待防止については区のこども支援センターに、小学校接続については幼保小連携活動に参加して、定期的に会合を開いています。

カテゴリー4

4 リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 **5／5**

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当

サブカテゴリー2（4-2）

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 **4／4**

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当

カテゴリー4の講評

園を取り巻く状況を考慮してリスクに優先順位をつけています

リスクについて、経営環境の変化、住民による迷惑行為、水害、地震、火災などを認識しています。経営環境の変化については近隣に開設される保育園情報などの情報収集に努めています。住民による迷惑行為については警戒を継続しています。水害、地震、火災については避難訓練年間計画を策定し、様々なケースを想定して訓練を実施しています。特に当園の近くには大きな河川があるため、マンションの7階まで避難階段を使用しての垂直避難訓練をしています。また、園長を総指揮者とした地震時、火災時の災害時役割分担表も綿密に定められています。

保護者には避難所や災害時の園との連絡方法を伝えています

BCP(事業継続計画)は、災害が起きたときには必要なことなので職員全員に伝えています。保護者には入園説明会の際や引き取り訓練の際に、避難所のことや園との連絡方法を伝えています。近隣の保育園や幼稚園、小学校などとの協力関係も計画に入れられるとよいでしょう。また、避難訓練の際は地元消防署の協力を得て、消火訓練などの合同訓練を実施しています。警察署には防犯訓練で協力を得ています。また子どもが大きなけがをしないように、事故報告書やヒヤリハット表で危険箇所をチェックしています。

情報管理を徹底し、情報漏洩を防いでいます

園の情報は、誰でも閲覧でき共有する情報と一部の職員しか閲覧できない機密性の高い情報に分けています。機密情報として子どもの児童票や保護者や職員の住所などの個人情報などが該当し、2階の事務所の鍵のかかる書庫で管理しています。また、園では子どもの名前や写真を園内掲示、ホームページで使用していますが、入園時に保護者から同意書を得ています。また職員には退職後の秘密保持義務についても説明し、守るように指導しています。ボランティアや実習生にも秘密保持義務の説明をして誓約書を得ています。

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1（5-1）

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2（5-2）

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当

	カテゴリー5の講評
	職員が長期間働けるように、職場環境を整えています 当園は最寄駅からバスを使うなど利便性の良くない場所に位置していますので、職員に長期間働いてもらうための対策を講じています。そのため職員同士の意思疎通を円滑に行えるようにして、何でも相談しやすい関係の構築に努めています。職員から退職の希望が出たときは、ハローワークや人材紹介会社、保育士養成校などに求人票を出しています。実習生にも声をかけています。近隣に系列保育園がありますので、常に交流しています。また職員が望めば異動に応じています。他にも系列園がありますが、地理的にも遠いので異動はほとんどありません。 キャリアパスは勤務年数に従って4階層に分け、求められる資質と能力を定めています 職員のキャリアパスは、園ではキャリアステージと名付けて作成し、勤務年数に従って4階層に分けています。そして保育士に求められる資質と能力について基準を定めています。個人別育成計画については「tell meシート」と名付けて作成しています。「今年度の自分の目標はありますか？」と問いかけて、今年度の成長目標を設定します。経験の浅い職員の指導にあたっては、教えることが得意な職員が担当します。職員同士が協力し合って育成に取り組んでいます。 職員と面談するときは職員のやる気の向上を図るようにしています 職員の人事考課は、職員が設定した今年度の成長目標の到達点を園長と面談して行います。考課の結果は給与や昇給に連動させています。職員の勤務シフトは副園長が作成します。有給休暇を取得したい職員はあらかじめ副園長に申請します。他の職員と重複しないようにシフトを決めます。職員との面談は、園長と副園長が担当します。良い仕事をした職員には面談時に褒めることで、職員のやる気の向上につなげています。また職員の人間関係を構築するため、お互いに話し合うことを大切にしています。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

これまで職員間の教育や保育の考え方に差があることが課題であったため、どの職員も同じ考え方をもって業務に励むことを目標にしました。具体的に行ったことは、チームを組むことです。一人がリーダーになり、他の職員はサブリーダーやアシスタントになって、チームで保育に取り組みました。日々の保育ではリーダーが教育・保育方針を発信すると、サブリーダーやアシスタント職員はその方針に従ったり、疑問があれば疑義を発表し解決するまで討論をしました。特にイベント時にはどのようにイベントを実施するのか話し合い、職員が同じ気持ちで、同じ目的を持ちお互い協力し合うようにしました。 イベント終了後には反省会を実施し、お互いに振り返りの感想を出し合い、どこが良かったか、改善点を出し合いチーム力が強化しました。こうした取り組みにより各職員のコミュニケーション能力も向上するという副次的効果も得られました。この取り組みは今年度も継続していますが、園では、さらにチームを組む職員に感謝する気持ちも育てていきたいと願っています。とりわけ園独自で子どもの主体性を伸ばす「スイッチ保育」を取り入れていますので、こうした取り組みを強化していく予定としています。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取り組んだ目標は、どの職員も同じ考え方をもって業務に励めるようにすることです。そのためチームを組んで保育を取り組むことにしました。一人がリーダーになり、他の職員はサブリーダーやアシスタントになって、話し合って保育しました。当然、意見の違いもありましたが、お互いの意見を調整しながら保育にあたりました。話し合いを重ねるごとに職員の気持ちも一つになりました。こうした取り組みの検証は、反省会で行いました。職員の闊達な意見交換を行ったことで保育にあたる気持ちが同じになったことを確認しました。副次的効果として各職員のコミュニケーション能力も向上しましたので、今年度も継続しています。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

これまではコロナ禍で実施できなかった地域社会との交流ですが、昨年度から積極的に行うことを目標にしました。取り組みとして敬老の日に合わせて、地域の子どもからその祖父母まで招待して、ふれあい遊びを行いました。また「親子でふれあい遊び」では、外部の専門家を招き、地域の未就園児を対象に行いました。運動会や発表会などの園行事にも、保護者や地域の人々を招待しました。こうしたイベントは、園の保育内容を地域に向けて紹介する良いチャンスなので、力を入れて行いました。結果として、保護者や地域の人々を招待する機会を多く設けたことで、目標としていた地域社会との交流が実施できました。参加者からも「楽しかったと」いう感想を得ることができました。また地域のお祭りには当園の子どもたちも参加し、地域の人々と交流しました。このような地域社会との交流活動は、今年度も積極的に取り組んでいます。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取り組んだ目標は、地域社会との交流です。コロナ禍が収まってきましたので、当園の子育て支援事業に地域の人々を招待して行いました。また園行事にも保護者を招待して行いました。こうした取り組みの検証は、参加した地域の人々や保護者から、参加できて良かったという感想を得て確認しています。今年度も積極的に取り組んでいます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目

サブカテゴリー1

1 サービス情報の提供　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／4

評価項目1
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している　　評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当

サブカテゴリー1の講評

園の利用を検討している保護者に向けて、必要な情報をホームページで発信しています

認定こども園の利用を検討している保護者に向けて、必要な情報をホームページで発信しています。ホームページでは園紹介、一日の流れ、年間行事、園児の様子、アクセスなどの情報を提供しています。園紹介では、さらにどんなこども園か詳しく知ってもらうために、理事長兼園長が動画で園の活動を紹介しています。子どもの将来に向けて英語教育に取り組んでいることや体操教室を展開していること、また食育にも力を注いでいることなどを紹介しています。「明るく、たのしく、のびのびと」をモットーに、就学前教育に注力しています。

区のホームページから当園のホームページへリンクしています

区のホームページの「私立認定こども園のご案内」から、当園のホームページへリンクしています。行政には、重要事項説明書および入園案内を提供しています。重要事項説明書に変更が生じた際には、その都度更新してお知らせするよう努めています。また、地域の住区センターや銀行、スーパーマーケットの協力を得て、都から配布された園児募集のポスターを掲示しています。さらに、年に5回開催される「未就学児クラス」や、園で行われる「夏祭り」のお知らせについても地域の銀行やスーパーマーケット、地域の行政機関に掲示を依頼しています。

見学の問い合わせがあった際に、希望者との日程調整を行い、園見学を実施しています

見学の問い合わせがあった際には、希望者との日程調整を行い、園見学を実施しております。見学希望日を3日程度提示してもらい、園のスケジュールに合わせて調整を行います。見学前には、園見学に関する要望を事前に聞いておき、当日は円滑に園見学や説明が行えるよう準備を整えています。施設内案内および保育方針等の説明は副園長が担当し、見学者には重要事項説明書と入園案内を配布し、入園案内に基づいて説明を行います。園見学希望者が来園される際には、職員に事前に連絡をし、子どもたちにも来園者の訪問を伝えています。

サブカテゴリー2

2 サービスの開始・終了時の対応

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの指導・援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2の講評

園では1号認定と2号認定の家庭が入園するため、時期を分けて説明会を行っています

入園前には保護者には基本的なルールや重要事項について説明を行っています。当園では1号認定児と2号認定児が入園するため、10月に入園前説明会を実施し、運営規定兼重要事項説明書をもとに説明を行い理解を得た上で入園を決めてもらっています。2号認定児の家庭には、3月に説明会を実施し、運営規定、サービス内容、利用料金などについて説明をしています。4月には全家庭を対象に新年度の運営規定および重要事項説明書、入園のご案内を配布し説明会を実施しています。

子どもに関する情報は、幼児生活調査表と親子面接事前アンケートで把握しています

入園前の子どもに関する情報は、保護者が記入した幼児生活調査表や親子面接事前アンケートで収集しています。親子面接事前アンケートでは、送迎バスの利用希望や園への要望、アレルギーの有無、心配事や不安に感じていることなどについて記入してもらい、子どもや家庭の状況を把握します。また、幼児生活調査票には「園の教育に関して特に望むこと」の記入欄を設けて、保護者の意向を確認しています。教育理念や教育目標などの重要事項について説明した後、同意書や入園誓約書、写真や動画の取り扱いに関する誓約書を提出してもらいます。

卒園や転園前に、希望する家庭があれば、個人面談を実施し、子どもの状況を知らせます

卒園や進級の前には、希望がある場合に個別面談を実施し、その時点での子どもの様子や成長過程について知らせています。これにより、卒園後や進級後の生活に参考にしてもらえるよう努めています。また、卒園後も幼稚園との関係を維持できるよう、近隣の小学校の行事に参加していますし、保護者とも交流できるようにしています。また、卒園児が園の行事に参加できるように連絡したり、地域のお知らせにも情報を提供したりしています。

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13／13

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当

評価項目2
全体的な計画（教育課程を含む）や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画（教育課程を含む）を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、指導の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○ 非該当

評価項目3
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な指導・援助内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、指導・援助を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、指導事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○ 非該当

	サブカテゴリー3の講評
	入園前に母子手帳を通じて子どもの状況を確認し、園全体で状況を把握しています 子ども一人ひとりに合ったサービスを提供するために、入園前の子どもの健康状態や既往歴、予防接種の履歴、健康診断の記録などについて、母子手帳を通じて確認し、園全体で子どもの状況を把握するように努めています。また、緊急時に備えて、各自のかかりつけ医についても記録し把握します。幼児生活調査票、親子面接の事前アンケート、緊急連絡表の裏面に母子手帳のコピーを添付したものを入園までに記入、提出してもらい、担任とともに確認した後、職員会議で全職員に周知しています。 全体的な計画を基本に、子どもの実態に合わせて指導計画を作成しています 園の方針や教育方針、幼保連携型子ども園教育・保育要領に基づき、その年の子どもの状況を的確に把握した上で、園の運営統括本部が毎年12月頃に全体的な計画を策定します。計画が完成した後は職員に周知し、次年度の運営方針とともに職員に伝達します。年間指導計画は全体的な計画を基に、各クラスの担任が子どもの状況を考慮して作成しています。月案や週日案にも全体的な計画を反映させ、担任が子どもの姿を捉え、目標や課題を設定した活動計画を作成しています。実施した活動について振り返りを記録し、次の計画に反映させています。 一人ひとりとの日常的な関わりにより得た子どもの様子は発達記録表に記載しています 子どもとの日常的な関わりを通じて得た情報は、各期ごとに担任が発達記録表に記録しています。指導計画に基づき、教育・保育を行っていますが、計画を変更した場合は、週日案にその内容を記録しています。月間指導計画は、前月の子どもの様子を考慮し、その月の目標や配慮事項を設定します。月末には子どもの様子や保育の評価を行い記録します。保護者からの要望は、保護者対応報告書に記載しています。この報告書には、連絡帳に記載された個別の要望も含まれています。保護者対応後の保護者や子どもの変化は必ず、記載するように指導しています。

サブカテゴリー5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 **5／5**

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した指導・援助を行っている	○ 非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 日常の教育・保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した指導・援助を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当

サブカテゴリー5の講評

外部とのやり取りが必要な時は個人情報保護規定に従って業務を行っています

個人情報およびプライバシーの保護に関しては、重要事項説明書に基づき個人情報保護に努めています。行事などにおけるビデオや写真の記録管理やプライバシーを守るための取り組みについて詳しく説明し、保護者から同意書を受け取っています。外部への利用者照会が必要な場合には、法人の個人情報保護規程に従って業務を行っています。また、緊急時の医療機関との連携などやり取りが必要な状況が発生した際には、保護者に対して十分な説明を行い、同意を得るよう努めています。

子どもの羞恥心に十分配慮して、子どもたちと接しています

園では、子どもの保育の際には、各々の子どもの羞恥心に十分配慮しています。例えば、着替えの際には、他の人の目が届かない場所で行うようにしています。また上下の服は一度に脱ぐのではなく、順番に脱ぐように子どもたちに指導しています。また、子どもの気持ちを大切に受け止め子どもが安心できるように声の大きさにも配慮して優しく声をかけたり、適切に対応したりすることで、個々の子どもを尊重した保育に心がけています。子どもの権利を尊重しつつ、子どもが意見を自由に表現できる環境を整え、各自がのびのびと過ごせるようにしています。

個人面談を通じて、保護者の考え方や家庭環境を把握しています

保護者との個人面談を通じて、家庭の状況を詳細に聞き取り、保護者の考えや子どもの家庭環境について理解を深めています。職員は家庭での様子を詳しく聞く中で、保護者の子どもへの接し方から、文化的な違いや考え方の相違などにも認識しつつも、保護者と園との共通の理解を深めながら教育・保育を行っています。そうした園の考え方に理解を得るための努力をしています。このようにして、子どもがこれまでの生活の中で身につけてきた生活習慣を理解し、子どもの行動を受け止めながら保育を行っています。

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当

サブカテゴリー6の講評

職員が提供するサービス内容の一定水準を保つために各種マニュアルを作成しています

保健衛生、感染対策、危機管理、園外保育に関する各種マニュアルを作成し、全職員に配布しています。マニュアルには日常業務を行う際に必要な基本事項、留意点などが記載されており、これらは職員が提供するサービス内容の一定水準を確保するために確認しています。各種マニュアルは年度初めの職員会議などで全職員で確認し、周知徹底を図っています。けがや病気に関するフローチャートは重要事項説明書に記載し、保護者とも共有しています。

マニュアルには業務を遂行するために必要な手順や基本事項、留意点が記載されています

マニュアルには、業務を遂行するために必要な手順や基本事項、留意点が記載されています。提供するサービスに関する基本事項や手順の変更は、年度の初めの会議で検討し、修正が行われたときは、職員会議で全職員に周知し確認を行っています。業務の実施については、終礼において各業務を行った職員が経緯を報告し、そこで確認を行っています。また、職員会議では必要に応じてマニュアルの内容を見直しに向けて意見交換を行っています。法令の改正や行政からの通達、保護者の意見、職員の気づきに基づいて、マニュアルは適宜改訂されます。

提供するサービスが社会情勢などに適合した状態となるように適宜見直しています

保護者からの意見が寄せられた場合、その妥当性については本部で慎重に検討しています。本部で検討した上で、寄せられた意見については内容に応じて、職員会議で議題として取り上げることもあります。子どもの状態の変化やサービスの内容に関しては、現場からの意見を重視し、各担任やフリー職員からの提案を職員会議で議論し、その結果について、本部で最終的な判断を行っています。このように、提供するサービスが社会情勢に適合した状態となるように見直す際には職員や保護者の意見を聞く仕組みを設けており、その結果を反映させています。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36／36

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じた指導・援助を行っている

評点（〇〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している	○ 非該当

評価項目1の講評

子どもの発達は四半期ごとに確認し、記録して把握しています

保育を実施する中で、子ども一人ひとりの発達については四半期ごとに発達を確認し、記録し把握しています。また、子どもに適した環境が提供されているかどうかは、月末に保育実践シートを用いて確認を行っています。クラスの状況や子どもの様子は職員会議で共有し、やってみたいことを提案し、把握した子どもの現状に基づいた教育・保育を行っています。さらに、子どもが興味を持って関与できるように、日々の活動の中に「スイッチ保育」を取り入れました。「スイッチ保育」とは、子ども自身がやってみたいことを自分自身で発見する保育です。

子どもの発達を援助するため「スイッチ保育」という特別なアプローチを取り入れました

子どもが興味を持ち積極的に過ごせる環境を整えることは、子どもの発達を援助する上で大切なことと考えています。そのため日常の保育に「スイッチ保育」という保育方法に園独自で取り組みました。スイッチ保育では、子どもたちが自ら一日の過ごし方を自由に計画できるようにし、その中で生まれる興味や関心を日々の教育や保育に生かすことを目指しています。このスイッチ保育を円滑に進めるためには担任や他の職員の理解が不可欠であり、話し合いを通じてその理解を深めてきました。職員からは、スイッチ保育に対して高い評価が寄せられています。

トラブルに対しては、子どもの気持ちを大切にしていることを保護者に伝えています

個々の子どもの発達状況や生活環境を常に把握し、子どもの気持ちに常に寄り添い、他の子どもとの関わりについても必要な支援を日々考慮しています。年齢の高い子どものトラブルには、互いの気持ちや考えを尊重し、最も良い解決策を子どもたちと模索しています。職員の提案が絶対的なものではなく、子どもの意志を最優先に尊重しています。保護者には電話連絡などで対話を行っています。けがが発生した際には謝罪し、けがの状況を一緒に確認します。また、子どもの様子や気持ち、保育者が何を大切にして、どのように関わったのか説明しています。

2 評価項目2
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した教育・保育を行っている

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう指導・援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

子どもの生活が安定するように、家庭での睡眠や健康の状態について報告を受けています

子どもの生活が安定したものとなるように家庭での子どもの様子を把握するために、日々、健康チェックをしてもらい、子どもの健康状態を確認しています。また、受け入れ時に保護者から直接確認した内容は、職員間で共有しています。風邪気味であるなどの子どもの様子については、連絡帳や園での連絡網を通じて保護者から通知されており、必要に応じてこまめに体温を測るなどの配慮を行っています。さらに、昼寝を含む休息についても、子ども個々のその日の状況や家庭からの要望を考慮し、柔軟に対応しています。

トイレトレーニングは子どもの状況や家庭の環境を考慮し、連携をしながら進めています

子どもの発達段階に応じて、手洗いやうがい、服の着脱、箸の使い方、排せつなどの基本的な生活習慣を日常保育の中で指導しています。手洗いやうがいの指導については、洗面所に手洗いの図を掲示し、子どもたちはその図を参考にしながら実践できるようにしています。トイレトレーニングは、子ども自身の状況や家庭の環境に応じて、家庭と連携しながら進めています。目安として、トイレトレーニングの開始時には、おとなと一緒にトイレに行き、トイレの場所を認識できるようになることから始めています。

子どもの様子で気になることや健康面ので懸念がある場合は保護者と対話をしています

子ども一人ひとりの毎日の様子を発信することは難しいため、特に気になる行動や発言があった際には、電話で連絡を取ったり、降園時に直接伝えたりして対話を心がけています。また、子どもたちの園での様子は、毎月、写真を用いてホームページで知らせるよう配慮しています。健康面での懸念や、病院を受診する必要があるような擦り傷が発生した場合には、詳細な状況とその後の対応を保護者に伝えています。これにより、その日の状況を保護者が把握することができ、適切な時期やタイミングで必要な支援が行われることにもつながっています。

3 評価項目3
日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（〇〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう指導・援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

「スイッチ保育」は、やるべきことから気持ちを切り替えることを目的としています

毎週木曜日には「スイッチ保育」という特別な保育日を設けています。この日は、体操や英語などの必須レッスンがあり、子どもたちはこれらのレッスンを受けています。それ以外の時間は自由に遊ぶことができるようにしています。スイッチ保育は、子どもたちがやるべきことに対して気持ちを切り替えることを目的としています。この日には、子どもたちが自らの意志で自分の好きな活動に参加できるよう、職員が声をかけています。また、スイッチ保育は異年齢の子どもたちが一緒に過ごす時間ですが、各年齢に応じた遊びやおもちゃも設定しています。

園全体で、職員が子どもの考える力を育むような関わり方を行っています

子どもたちの生活が豊かに展開されることを目指し、個別の状況に応じて言葉を用いて相手に考えを伝えたり、相手の話をよく聞いたりできるよう言葉に対する感覚を育んでいます。具体的には指示を出したり答えを教えるのではなく、子どもの考える力を育むような言葉かけや関わりを大切にしています。個々の子どもに対しては個別の関わりを持ちながら、全体にも話しかけ集団での活動が促進できるよう配慮しています。子どもたちが自らの頭で考え、集団の中で悩みながら工夫し、各々が自分の考えを自分の言葉で表現できるようにしています。

子どもが生活や遊びの中で約束や社会のルールに気付くように教育・保育を行っています

他の子どもが遊んでいるおもちゃを借りたい場合には、必ず「貸して」と気持ちを言葉で伝えることを約束しています。すぐに借りられない場合には、時間を決めて貸し借りを行うようにしています。ルールや決まり事の重要性は、系列の保育園との交流会を通じて、年下の子どもたちと共に行動する中で多くの気づきを得るため、こうした機会を大切にしています。また、園外保育においても社会的ルールを体験することができるため、重視しています。子どもたちが生活や遊びの中で、園内のルールや社会的なルールの重要性に気づくように保育を行っています。

4 評価項目4
日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当

評価項目4の講評

行事に向けて指導案を作成し子どもたちの成長につながるように内容を決め進めています

年間行事の計画を立て、各行事の目的を明確にしながら子どもの姿を観察し、日常の保育との関連を持たせて行事を実施しています。運動会や発表会は保護者参加の行事としており、行事に向けて指導案を作成し、その時々の子どもの様子を捉えながら、子どもたちの成長に繋がるように進めています。また、子どもたちのアイデアを取り入れたり、一緒に遊戯の振り付けを考えたりすることで、子どもたちと共に行事を作り上げることに努めています。このようにして子どもが行事に興味や関心を持ち、自発的に取り組むことができるように工夫をしています。

子どもたちは行事を行う目的や、めあてについて話し合い、共有をして当日に臨みます

運動会や発表会、夏祭りは、協力して一つの目標を達成する喜びや楽しさを体験できる行事です。5歳児のリレーの走順は、練習の成果を考慮し、子どもたちがチームで毎回真剣に話し合って決定しています。発表会の内容は、日常の保育活動から生まれたものを基にしています。実施に際しては、子どもたちは「何のために行うのか」「誰に見せたいのか」「どのように見せるのか」を話し合い、全員がその目的を共有し、達成に向けて取り組むようにしています。また、保護者には学期末の保護者会で子どもたちに成長の過程を伝えています。

5 評価項目5
在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当

評価項目5の講評

滞在時間が長い子どもたちは通園バスでの系列の保育園への移動を楽しみにしています

「スイッチ保育」により子どもたちが自らの好みに基づいて遊びを選び、集中して楽しむことができるよう配慮しています。その際、異年齢児の交流をして、5歳児が製作活動を行う際には、4歳児がその姿や手法に憧れ、模倣しようとする様子が見られます。さらに、4歳児の行動に気づいた5歳児が、優しく手助けをし、製作方法を教える姿も見られます。また、長時間滞在する子どもたちは、1号認定の子どもたちが降園した後、通園バスで系列園の保育園に移動し、そこでおやつの時間を迎えます。バスでの移動は子どもたちの楽しみになっています。

長時間保育専門の保育者がいることで子どもたちは安心感をもって過ごすことができます

長時間滞在する子どもたちには、14時から担当する保育者を2名配置し、毎日同じ保育者がいることで子どもたちは安心感を持って過ごすことができています。また、午後には系列園の栄養士による食育の時間も設けられています。施設内には、長時間滞在する子どもたち専用の保育室があり、子どもたちが自由に選んで遊べる多様なおもちゃが揃っています。さらに、子どもの状態に応じて休息が取れるよう、遊びの部屋とは別に休憩室があり、コット(簡易ベッド)も用意されています。このように子どもたちが安心して過ごせる環境が整っています。

子どもたちが楽しく過ごせるように子どもの希望を実現しやすい環境を整えています

滞在時間が長くなる中で子どもたちが楽しく過ごせるように、子どもたちの希望を実現しやすい環境を整えています。当園から延長保育が行われる系列の保育園に移動する際には、毎日決まった職員がついていくことで、子どもが安心できるようにしています。18時00分以降に帰宅する子どもたちは、通園バスで自宅近くまで送迎しています。保育時間が長い子どもたちは、教育時間終了後に系列園へバスで移動し、好きな遊びを楽しむことができ、保育形態が大きく変わることなく、皆で通園バスで帰宅することで楽しい時間を過ごせるよう配慮しています。

6 評価項目6
子どもが食事を楽しめるよう配慮している

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 園で提供する食事は、メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目6の講評

週に一度の家庭からお弁当の日を子どもたちは楽しみにしています

園では、食事に関する取り組みとして、週に一度家庭からお弁当を持参する日を設けています。その他の日には、外部から発注したお弁当を提供しています。お弁当の量については、子どもたち自身が選べるようにしており、無理に食べさせるのではなく、興味を持てるような声かけを工夫しています。また、食に関する絵本を活用し、「食べてみたい」という気持ちを育むよう努めています。食物アレルギーのある子どもには、外部給食の範囲内で可能な限りアレルギー対応を行っています。また、文化の違いに配慮した食事の提供にも努めています。

子どもたちの食への興味を引き出すために担任と栄養士が連携して食育活動をしています

子どもたちの興味を引き出すために、担任と管理栄養士が共同で食育活動を推進しています。食育の一環として行われる栽培活動では、子どもたちが苦手な食材を育て、調理に参加することで「食べてみたい」という気持ちを育むことを目指しています。栽培する食材として、苦手な子どもが多いピーマンとナスを選定しました。2号認定の子どもたちは保育園の園庭でナスを育て、収穫したナスを使ってみそ汁を作り、味わいました。3歳児はピーマンを用いて「ピーマンクッキー」を作成しました。栽培した食材は特別な味わいだったようです。

園では箸の正しい使い方を修得することも食育の重要な要素と考え、取り組んでいます

5歳児は、異なる国の保護者からその国の文化や遊びを学びながら、代表的な料理を調理する活動を行っています。子どもたちは、他国の保護者と交流することで、異文化の料理や文化に対する関心を深めています。また、製作や絵本を通じて興味を持った食育活動にも取り組んでいます。箸の正しい使い方を習得することも食育の重要な要素と考え、イラストを掲示したり、遊びの中に取り入れたりしています。さらに、食事の前には献立に使われる食材について話し合い、楽しく学ぶ機会を提供しています。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように指導・援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目7の講評

園では子どもが自分の健康や安全に関心を持てるように指導しています

子どもたちが自分の健康や安全に興味を持ち、自ら健康管理ができるように、絵本を用いて話をするなどの指導をしています。新型コロナウイルス感染症予防対策については、安全に過ごすため約束事などを話す機会を設けて、子どもたちに伝えています。手洗い指導として、手洗いチェッカーを使用して子どもたちにていねいに手を洗う大切さを伝えています。咳エチケットや衣類の着替えを通して、日ごろの衛生管理に関心をもち、健康な生活を送れるようにしています。交通安全指導は園外保育のときに安全について実践指導を行っています。

医療的なケアが必要な子どもは、関係機関や家庭と連携するなどの対応をします

重要事項説明書に、発熱時の対応、下痢の時、嘔吐の時、咳の時、発疹の時の対応について、園の対応方法をフローチャートにして保護者に伝えています。24時間以内に37.5℃を超えた発熱の場合は、医師の指示に従うことを伝えています。医療的なケアが必要な子どもがいる場合には関連機関、家庭と連携をとり、専門家による指導を受ける体制を整えています。嘱託医により年1回健康診断と年1回歯科健診を行い、結果は保護者に伝えています。子どもの体調に変化が見られた場合は嘱託医に相談するようにしています。

毎月発行する園だよりを通じて、保護者に子どもの健康に関する情報を提供しています

毎月発行する園だよりを通じて保護者に子どもの健康に関する情報を提供しています。持病や発作のある子どもについては、保護者との連絡が円滑に行えるように、また必要に応じてお迎えを要請できるようにしています。年に一度の健康診断の結果は、必ずお知らせし、受診が必要な場合には受診をお願いしています。また、通常とは異なる状態の際には、早朝に連絡が取れるようにしています。体温や健康状態を報告し、様子を観察する中でお迎えを要請する可能性があることも事前に伝えています。子どもの健康状態は全職員で共有し見守っています。

8 評価項目8
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 保護者には、生活形態や子育ての考え方の違いなど、個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の教育・保育の活動への参加を促している	○ 非該当

評価項目8の講評

家庭の事情や就労の都合での急な延長保育のニーズにも柔軟に対応しています

認定こども園であることから入園時に保護者の希望に基づいて、1号認定（教育時間9時～14時）、2号認定保育短時間認定（保育時間8時間）、または2号認定保育標準時間認定（保育時間11時間）のいずれかを選択して契約しています。延長保育を希望する場合は、スポット利用で申し込みができます。家庭の事情や就労の都合での急な延長保育のニーズにも柔軟に対応しています。また、保護者の不安や悩みについては、状況に応じて面談を実施しています。園内での対応が難しい場合は、関連機関と連携し適切に対応を行っています。

役員制度は、保護者同士の関係作りや職員との協力を促進する機会となっています

役員は3年ごとに、園の活動に参加してもらうように全家庭にお願いしています。この役員制度は、職員との協力を促進する機会となっています。これにより、保護者同士だけでなく、保護者と職員との交流も一層深まっています。また、運動会では保護者競技を取り入れ、保護者同士が協力し合うプログラムを実施しています。さらに、学期ごとに保護者会を開催し、クラスの状況を共有する機会を設けています。保護者同士の交流が進むことで、安心して子育てができる環境を整えることを目指し、園活動への保護者の参加を促しています。

保護者会や個別面談を通して、子どもの様子や成長過程を家庭と園で共有しています

個別面談は年1回行うようにしていますが、年度末には希望者に行ったり、状況に応じて行うようにしています。保護者会や個別面談では、子どもの様子や成長過程を話す機会を設けて、家庭と園で子どもの成長を共有するように努めています。毎年、行事に向けての子どもたちの成長過程を見てもらうことをねらいとして、運動会の練習の参観をしてもらっています。今年度も実施することができ、保護者からも本番との違いなどから、成長過程を見ることができて良かったとの声が聞かれています。

9 評価項目9
地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目9の講評

公園や図書館などの地域資源を利用して、子どもが多様な体験ができるようにしています

地域の一員として子どもたちが生活できるよう、図書館や近隣の公園を積極的に利用しています。公園への往復時には地域の人々と挨拶を交わしたり、親しみを持って声をかけてもらったりしています。図書館では、子どもたちが好きな本や紙芝居を借りて楽しんでいます。また、地域の区民祭りでは町会と協力し、こども園として一つのブースを担当しました。区民祭りでは、子どもたちが保護者と共に訪れ、楽しんでいる様子が見受けられました。さらに、消防署の見学するなど、子どもたちは地域の多様な資源を活用して豊かな経験を積んでいます。

園では地域との有効な関係を築くために、運動会や卒園式に地域の方を招待しています

園では地域との友好関係を築くため、運動会や卒園式に地域の人々や町会、民生委員を招待し、子どもたちの成長を共に祝っています。長い歴史を持つ園には、卒園した保護者や地域の人々も多く、運動会では地域の方が大勢見学に来て、子どもたちの成長を共に喜ぶ姿が見られました。また、地域の行事には幼稚園として参加したり、地域のお祭りでは休憩所として園を開放したりするなど、地域との良好な関係を築いています。

《事業所名：東京白百合幼稚園》

調査対象	認定こども園を利用している44世帯を対象に調査を実施しました。在園児は45名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。
調査方法	アンケート調査は、Webアンケートシステムを使用し、無記名方式で行いました。案内は施設を通じて利用者へ配付し、集計は評価機関が行いました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。

利用者総数	45
利用者家族総数（世帯）	44
共通評価項目による調査対象者数	44
共通評価項目による調査の有効回答者数	29
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	65.9

利用者調査全体のコメント

園に対する総合的な感想は、「大変満足」が11人（37.9%）、「満足」が16人（55.2%）で「満足」以上の回答は合計27人（93.1%）でした。

自由意見には、「子どもが生き生きとしています。通園させて良かったです」「少人数のため、一人ひとりに寄り添った保育をしていただいています」「子どもたちがのびのびと楽しそうです」「あらゆる新しい施策を講じながら常にいい教育保育は何かを模索している点には脱帽、感謝です」「アットホームです」「先生方が全園児をしっかり把握して見てくれています」「運動会なども質が高いと思います」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「園での活動は、子どもの教育や心身の発達に役立っているか」で100.0%、「園での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」で96.6%、「園の生活の中で、身近な自然や社会と十分関わっているか」他2項目で93.1%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。また、「安全対策が十分取られていると思うか」で34.5%と、ほかの項目に比べると「はい」の回答率がやや低くなっています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 運動や休息の配分は、子どもの発達の状態や在園時間に応じて工夫されているか	22	4	3	0
「はい」が75.9%、「どちらともいえない」が13.8%、「いいえ」が10.3%でした。 自由意見には、「課外活動がある日も余力を残して帰ってきます」などの声がありました。 その一方で、「お昼寝の時間がなく、帰宅時間も遅いため睡眠時間が足りていないように感じます。入園前に説明は受けましたが、年齢で考えるともう少し睡眠時間をとってもらいたいです」という意見もありました。				
2. 園での活動は、子どもの教育や心身の発達に役立っているか	29	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「集団生活を通じて他者との関わり方を、行事を通じ伝統や四季を学んでいるようです」「先生との関係やお友だちとの関係で、いろんな感情を学んでいるのだなと感じます」「通園してから活発になり、いろいろなことに自分でチャレンジするようになったと思います」「たくさんの行事があり、その都度一生懸命に取り組んでいます。先生方の指導のかいあって楽しく学んでいるように思います」「年齢を超えて交流できます」などの声がありました。				
3. 園での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	28	1	0	0
「はい」が96.6%、「どちらともいえない」が3.4%でした。 自由意見には、「楽しんで通園しているので、興味や関心を持って行える活動になっていると思います」「一年を通じて、いろいろな行事があってとてもいいと思います」「子どもが毎日幼稚園に行くのを待ち遠しく思いながら生活しています。とても楽しく過ごさせてもらっているのだと思います」「学習カリキュラムに英語や体操、水泳などを定期的に設けており、子どもも楽しみにしていて前向きに取り組んでいるようです」などの声がありました。				

4. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	15	13	0	1
「はい」が51.7%、「どちらともいえない」が44.8%、「無回答・非該当」が3.4%でした。 自由意見には、「保育園でのおやつが栄養を考えた手作りでありがたいです」「おやつは自園で作られているものであり安心できます」などの声がありました。 その一方で、「保育園で調理した給食のほうが美味しいようで、通常の給食はあまり好きではないようです」という意見もありました。				
5. 園の生活の中で、身近な自然や社会と十分関わっているか	27	2	0	0
「はい」が93.1%、「どちらともいえない」が6.9%でした。 自由意見には、「近くの浄水場のお祭りに幼稚園で参加していたり、行事として芋掘り遠足があったりします」などの声がありました。				
6. 保育時間の変更が急きょ必要になった場合、開園時間内において、園の可能な限り、柔軟に対応されていると思うか	25	3	1	0
「はい」が86.2%、「どちらともいえない」が10.3%、「いいえ」が3.4%でした。 自由意見には、「今までにも数回、柔軟な対応をしてくださっています」などの声がありました。				
7. 安全対策が十分取られていると思うか	10	13	6	0
「はい」が34.5%、「どちらともいえない」が44.8%、「いいえ」が20.7%でした。 自由意見には、「感染症対策や避難訓練などに不満はありません」などの声がありました。 その一方で、「対応が不十分と感じることがあります」という意見もありました。				
8. 園の活動に保護者が参加しやすいよう、工夫されているか	14	15	0	0
「はい」が48.3%、「どちらともいえない」が51.7%でした。 自由意見には、「年間スケジュールで早めにお知らせがくるので調整しやすいです」「時期によるが保育参観などは複数日あるため都合がつけやすいです」「事前に予定がお知らせされていて、予定を調整しやすいです」などの声がありました。 その一方で、「11/1のお休みと三連休、運動会の練習、引き取り訓練と日程が続いており日程調整が大変だったので、あまり連休に続けて仕事を休まなくてはいけないような行事は入れないでほしいです」という意見もありました。				
9. 子どもの教育・保育について家庭と園に信頼関係があるか	22	7	0	0
「はい」が75.9%、「どちらともいえない」が24.1%でした。 自由意見には、「子どもの良い変化や気になることについて登園時やノートで教えてくれています」「少人数なのでどの先生も自分の子どもの名前はもちろん、特徴などをある程度理解してくれていると感じ安心できます」「どの職員も園児全ての名前を覚えて声をかけてくれる点が、預ける側の安心感に繋がっていると感じます」などの声がありました。 その一方で、「日頃はあまりゆっくり話す時間はなかなか取れないなという印象です」という意見もありました。				
10. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	25	4	0	0
「はい」が86.2%、「どちらともいえない」が13.8%でした。 自由意見には、「きれいにされています」「先生方がよく掃除してくれていると思います。施設の老朽化は気になります」などの声がありました。				

11. 職員の接遇・態度は適切か	27	2	0	0
「はい」が93.1%、「どちらともいえない」が6.9%でした。 自由意見には、「多くの先生が目を見て朗らかに挨拶してくださり、子どもを預けて良かったと思います」「先生が皆一生懸命です」「明るく元気で一番大事な挨拶をおざなりにすることなく教えてくれます」「威圧的な先生方がおらず、優しい先生ばかりで楽しく通えます」などの声がありました。				
12. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	27	2	0	0
「はい」が93.1%、「どちらともいえない」が6.9%でした。 自由意見には、「小さな事でも、連絡をくれ、対処してくれて助かります」「その都度、お迎えに行った際や電話連絡で教えてくださっています」「以前、子どもが園でけがをした時にすぐに病院へ連れて行ってくれて、状況など逐一連絡をいただけて安心しました」などの声がありました。				
13. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	20	6	0	3
「はい」が69.0%、「どちらともいえない」が20.7%、「無回答・非該当」が10.3%でした。 自由意見には、「いじめに対する話をあまり耳にしません。子ども同士も仲がよいので、先生方の指導のおかげだと思います」「そのような状況がないからわかりません」などの声がありました。				
14. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	26	3	0	0
「はい」が89.7%、「どちらともいえない」が10.3%でした。 自由意見には、「子どもの個性を汲み取って、気分を乗せてくれるような声かけや提案をしてくださっていると感じます」などの声がありました。				
15. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	21	5	1	2
「はい」が72.4%、「どちらともいえない」が17.2%、「いいえ」が3.4%、「無回答・非該当」が6.9%でした。 自由意見には、「保護者自身はそう思っていなくてもプライバシーに関わりそうな事は他の人に聞こえないように聞いてくださったりしています」などの声がありました。 その一方で、「連絡帳の渡し間違いがあった」という意見もありました。				
16. 教育・保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	25	2	1	1
「はい」が86.2%、「どちらともいえない」が6.9%、「いいえ」が3.4%、「無回答・非該当」が3.4%でした。 自由意見には、「保護者会で先生の言葉で説明してくださるのでわかりやすいです」「お便りやアプリで見やすく伝えてくれています」などの声がありました。				
17. 利用者の不満や要望は対応されているか	17	11	0	1
「はい」が58.6%、「どちらともいえない」が37.9%、「無回答・非該当」が3.4%でした。 自由意見には、「思うことがあり園側にお伝えした際は当日中に対応してくださいました。誠意を持って対応してくださっていると感じとても安心しました」「不満はありません」などの声がありました。				

18. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	16	7	5	1
「はい」が55.2%、「どちらともいえない」が24.1%、「いいえ」が17.2%、「無回答・非該当」が3.4%でした。 自由意見には、「そういった説明をされた記憶はないです」などの意見がありました。				

株式会社 学研データサービス
（福祉サービス第三者評価機関）

〒１４１-００３１ 東京都品川区西五反田２-１１-８
TEL０３-５４３６-８１９１　FAX０３-５４８７-８８１０

●評価機関認証
東京都福祉サービス第三者評価機関認証
埼玉県福祉サービス第三者評価機関認証
千葉県福祉サービス第三者評価機関認証
神奈川県福祉サービス第三者評価機関認証
社会的養護関係施設第三者評価機関認証